

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Pregnancy outcomes after preterm premature rupture of membranes: the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

早産期の前期破水の妊娠予後

ユニットセンター(UC)等名:大阪ユニットセンター
サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: The Journal of Obstetrics and Gynaecology Research

年:2022 DOI:10.1111/jog.15388

筆頭著者名: 平田 克弥

所属 UC 名: 大阪ユニットセンター

目的:

本研究では、早産期に起こった前期破水の妊娠予後を明らかにすることを目的とした。

方法:

エコチル調査に登録された全 104,062 胎児中、前期破水の有無の記録がある 99,776 人の妊婦を対象とした。早産期の前期破水の起こった在胎週数毎の妊娠の予後(正期産、早産、死産・流産)、分娩週数、出生体重、羊水過少、胎内感染、胎児心拍異常、常位胎盤早期剥離、帝王切開、分娩抑制剤の使用、母体への抗生剤の使用、生産率、新生児仮死(生産症例のみ)の実態を記述統計で示した。

結果:

早期(在胎 18 週から 23 週)の早産期の前期破水は 0.1% (n=102)であり、後期(在胎 24 週から 36 週)の早産期の前期破水は 1.2% (n=1205)であった。これら 1307 例の早産期の前期破水中、5% (n=66)が流産または死産となり、85.6% (n=1119)が早産での出生となり、9.3% (n=122)が正期産での出生となった。分娩週数や出生体重は前期破水の時期が遅くなることに比例して大きくなった。羊水過少、胎内感染、胎児心拍異常、常位胎盤早期剥離、帝王切開、新生児仮死などの妊娠合併症の割合は、前期破水なしに比べて、早期の早産期の前期破水で高かった。

考察(研究の限界を含める):

本研究では、早産期の前期破水の妊娠予後についての実態を明らかにした。成育限界付近での早期の前期破水では、有病率、死亡率は高い一方、少数例ではあったが、正期産児で生まれた子どもも存在した。本研究での結果は、早産期の前期破水をきたした妊婦への説明に際しての資料として有用であると考えられる。本研究の限界は、子どもの新生児期の予後のデータがないこと、大多数の妊婦が日本人であるため他の人種への一般化が難しいこと、前期破水の診断は各参加施設の医師の基準でなされていることである。

結論:

本研究では、成育限界付近を含む早産期の前期破水の妊娠予後を明らかにした。